

私達は、地域住民の心と身体の健康をささえる病院として「こころのふれあい」を大切に、安心と満足、信頼を得られる医療を行ないます。

平成24年11月5日発行

発行責任者 広報委員会
地域連携室
連絡先 医療社会事業課 0748-33-7104

八幡青樹会病院 季刊広報紙

青葉の風 祝

第32.33号
合併特大号

～ 八幡青樹会病院ニュース ～

財団法人青樹会は今年で60周年を迎えることとなりました。ひとえに皆様のお陰と深く感謝しております。この機会に職員一同心を新たに、今まで以上に一生懸命努力する覚悟でございます。今後ともご支援、ご協力くださいますよう、心よりお願い申し上げます。それでは今回は八幡青樹会病院の季刊広報誌「青葉の風」第32・33号合併特大号をお届けいたします。



当院の家族ミーティングの紹介

今年度も家族ミーティングを開催することができ、当院の家族ミーティングは今年で5年目を迎えました。

精神科の病気は、長期的なお付き合いになることが少なくなく、あせらず・ゆっくり・のんびりと関わる必要があります。

家族ミーティングでは、御家族の皆様が自分自身の生活を楽しめ、心身共に健康でいられることを目標にしています。

今年は、7月に医師の疾病教育から開始し、好評なスタートとなりました。12月までの月1回、合計6回を予定しています。病気や治療に関する正しい知識や情報を共有し、御家族の皆様が抱えておられる不安や悩みについて語り合える時間としています。

事前申し込みがなくても参加はご自由です。皆様のご参加をお待ちしています。

7病棟 主任 井狩 奈美枝



外来診療時間のお知らせ



外来診療は完全予約制です。事前にお電話でご確認ください。

- 診療科目：精神科・心療内科・神経科・内科・循環器科
 - 初診受付：午前8時30分～午前11時30分
 - 診療日：月曜日～土曜日
(土曜日でも平常どおり診療しております。)
 - 休診：日曜 祝祭日年末年始(12/30～1/3)
夏季(8/15)、創立記念日(7/16)
- ～～ 受診の際は健康保険証をお忘れなく ～～

	月	火	水	木	金	土
1 診	由利	山 柁	石 倉	由利	山 柁	山 柁
2 診	山 本	山 本	齋 藤	山 本	石 倉	石 倉
3 診	廣 田	水 元	廣 田	濱 名	濱 名	廣 田
4 診	濱 名	砂 田	—	青 木	—	—
内 科	—	水 田	—	—	—	—
循 環 器	—	—	—	—	—	芦 原

青樹会60周年を記念し対談企画を行いました！

財団法人青樹会60周年を記念して広報部会でも何か企画ができないかと考え、院長を筆頭に事務局長、看護副部長、看護次長で対談の企画を行いました。

普段ではなかなか聞けないお話をアツク語っていただき、青樹会の歴史を振り返りながらそれぞれの立場からの意見をぶつけてもらいました。その対談の様子を裏面に掲載しています☆



是非、ご覧ください♪

第24回財団法人青樹会研究発表会公開講座のお知らせ

毎年行われている研究発表会にびわこ学院大学教授 ^{しんや ひさゆき} 新屋 久幸先生をお招きして「今日も元気！明日もハツラツ～スマートエイジングの基礎～」というテーマで講演していただきます。

『人生80年を超えるこれからは、老化を敵として考えるのではなく(アンチ・エイジング)、心身の老化に賢く対処し、さらに年齢を重ねるにつれて人間として成長し、豊かな人生へとつなげていくスマート・エイジングの考え方が重要になってきます。

スマート・エイジングの基礎について一緒に考えてみませんか？』
入場料・事前申し込み不要です。

皆様のご来場を
心よりお待ちしております



日 時：11月23日(金)
12：30～受付
13：00～開催
場 所：ミモザホール
(近江八幡)

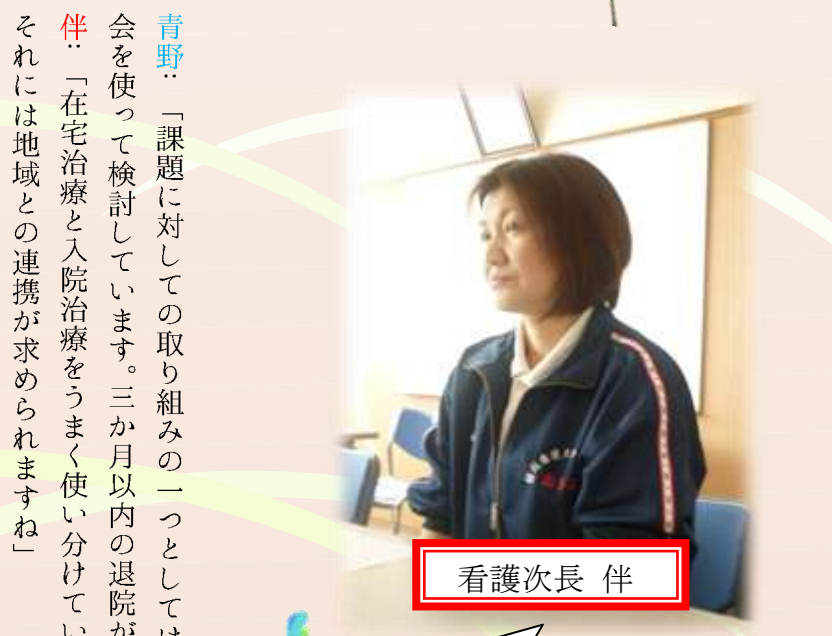
六十周年記念対談企画 祝 「青樹会の足跡、未来を見つめて」

「これまでの歩みをしっかり確かめる」



事務局長 高田

院長の由利を筆頭に、事務局長の高田、看護副部長の青野、看護次長の伴で「青樹会の足跡、未来を見つめて」ということで対談を行いました。
今日までの青樹会の歩みから、病院の課題や現状に目を向け、これからの病院のあり方を共に話し合い、より良い医療を提供するには、また、求められる病院運営とは何か、見つめていけたらと思います。



看護次長 伴

「足元から見つめ直し、地域医療を作り確立していく病院に」

「常に上昇志向。健全経営を 行っていく」



院長 由利

高田：「はい、その後も平成8年にグループホームや滋賀県の精神科では初めての「訪問看護ステーションおうみ」の立ち上げ、平成9年には精神科デイケアの運用も始まり精神科医療施設として向上を続けてきました。」
高田：「また、MRIの導入なども同時期に行い、内科の整備も図りました。」
青野：「医療の質を向上させる為に必要なものを取り入れてきたのですね」



看護副部長 青野

「地域のニーズにどれだけ貢献できるか、誇りをもって取り組みたい」

高田：「昭和27年7月16日に八幡青樹会病院は「八幡精神病院」として51床からスタートしました。」
由利：「平成6年に360床の保険医療機関屈をし、現在の病床数に変更したわけですね。」
高田：「そして、現在は公益財団法人の移行を目指しています。」
青野：「公益法人になる事のメリットとはなんですか？」
高田：「もともと公益性の高いものですが、一層の公益性が高い財団であり国から認められるもので、より社会のニーズに対して応えていくためです。」
青野：「より厳しく評価され、より認められた経営を行えるのですね。」
由利：「しかし、他に残された課題やニーズはまだまだある状況、まさに難問山積です。」
由利：「長期入院者の在宅移行・在宅医療の充実や急性期治療の整理。また、永遠の課題とも言える医師・看護師の人材確保等により意識的に取り組む必要があります。」
伴：「よりシステマティックに、より効率的に実践していくことが、安定した医療の提供につながるということですね」

青野：「課題に対しての取り組みの一つとしては現在、病床の管理は委員会を使って検討しています。三か月以内の退院が70%を超えています。」
伴：「在宅治療と入院治療をうまく使い分けていくことにも繋がりますね。それには地域との連携が求められますね」
青野：「病院が地域に連携する為には職員の意識も向けていく必要があると思います。職員一人一人が社会貢献を担う存在であり、病院という体の細胞なのだ。」
由利：「医療人としてのスキルの向上はもちろん、社会人としてのモラルの向上を意識しています。研修を行的確に行動できる人材の育成が見える形の社会貢献に結びつけていきます。」
伴：「常に『青樹会の職員』なのだという意識を持つ軸となる職員が一人でも増えれば質の高い看護を行うことができ、先程に院長が言われた課題にも有機的に取り組むことが可能ですね。」
由利：「その通りですね。病院としては、保険点数の改編や医師不足などの沢山の問題の中から社会のニーズを掴み医療・福祉・経営を行っていくこと、常に模索し選択し変わり続けていくことが、積み上げる実績になるのだと思います。」
高田：「財団設立の趣意書を見えますと、『精神障害者及び之等類似の病者の為に一般入院治療を行うと共に生活困窮者その他の者に軽費による入院治療を施し精神衛生上の指導或いは退院後の社会的指導をも併せて行い、一日も速やかに健全なる社会人に回復出来るよう援助する為に設立する』とあります。皆さんがおっしゃったニーズを掴むと言うことは財団設立当初からの志でもありますね。」
由利：「基本に戻り、時代に合わせた必要性を明確なビジョンで、整合性を持ち、公益的な病院運営を続けていくことが多くのニーズを引き出す方法とということですね。」
由利：「職員一同がその基本を忘れずこれからも地域医療に貢献できる様に取り組んでいきたいと思えます。」

